

日本の西側から世界に開く そこに価値がある



百枝 優さん

建築家

Mamoeda Yu

寺町一帯が
おしゃれな街に変わった

——百枝さんは長崎出身。新国立競技場の設計で知られる隈研吾さんの事務所を経て、福岡で独立されました。メモリードが百枝さんに最初に設計をお願いしたのが、2015年に長崎市の眼鏡橋近くにオープンしたカフェ「ブリッジ」と同店舗内のチヨコレートハウス「スペクタクル」です。

百枝 メモリードグループの吉田代表が「街おこし、街づくりをしたい」とおっしゃって、「まちぶら案内所もてなしや」と「スペクタクル・ラボ」、「まちやコスメてふてふ」などもやらせていただきました。

——11月には新しいカフェもできました。これらの店舗がある寺町の一帯は、おしゃれな街並みになってきましたね。観光客も増えているそうですね。

百枝 吉田代表が「30軒つくと街が変わる」とおっしゃっていました。「オリンピックまでにどんどんやるぞー」と。スピード感がありすぎて、追いつけないときもありますけど（笑）。メモリードのような大企業が地方都市を変えていくというのは、とても現代的なやり方ですね。寺町は和のエリアです。それをモダンにどう変えていくかだと思っています。

——「スペクタクル」はチヨコレートショップですが、床におもしろい仕かけがあるんですね。

JCDデザインアワード2017で

金賞を受賞した「長崎あぐりの丘高原ホテル」のチャペルの設計者であり、

長崎・福岡のメモリードの店舗やホールなども手がけている百枝優さん。

若手建築家として注目を集める百枝さんにお話をうかがいました。

百枝 はい。大学の恩師に「日本の西側にいても、普遍的であればどこでも通じる」と言われたんです。それから普遍性とは何かと常に考えるようにしています。それは恩師の影響がかなりあります。それと、隈研吾さんに感謝しています。隈さんはすごくおほかたで、スマートで、でもすごくハングリーなんです。僕はそのハングリーな面を、隈さんの事務所に勤めていたから知ったんです。

——隈さんって、そうなんですか。

百枝 自分で決断することを親が、普遍的であるということや大学の恩師が、ハングリーであることを隈さんが教えてくれました。その3点かな、自分を構成してるのは。

——これからやっていきたいことは何ですか？

百枝 出身地は大事だと思っています。僕は



世界初の構造。建物の中にも森の中のような「長崎あぐりの丘高原ホテル」のチャペル「FOREST OF OATH」
撮影：針金洋介

Profile

ももえだ・ゆう
1983年長崎生まれ。2006年九州大学芸術工学部環境設計学科卒業。2009年横浜国立大学大学院／建築都市スクール Y-GSA 修了。2010年隈研吾建築都市設計事務所を経て2014年百枝優建築設計事務所設立。九州大学非常勤講師。
[主な受賞歴]
2006年：SD Review 2006 新人賞
2008年：SD Review 2008 入選
2013年：同志社大学京田辺キャンパス礼拝堂設計競技 優秀賞
2017年：JCD デザインアワード 2017 金賞
アジアデザイン賞 大賞+金賞

百枝 大学に「なんとなく」行くのはいやだったので、受験のときにはかなり思い悩んでいました。何を勉強したらいいのかと。両親に「大学に行く意味がわからないから、教えてほしい」と聞きました。父には「私にはわからないから、自分で決めなさい」と言われましたが、そのときに親離れたのだと思います。もし「こうしろ」と言われても反発したと思うし、結果として、ここからは自分で決めなきゃいけないと思ったことが良かったと思います。

——ご両親に感謝ですね。それで大学では建築を勉強されました。

百枝 はい。大学の恩師に「日本の西側にいても、普遍的であればどこでも通じる」と言われたんです。それから普遍性とは何かと常に考えるようにしています。それは恩師の影響がかなりあります。それと、隈研吾さんに感謝しています。隈さんはすごくおほかたで、スマートで、でもすごくハングリーなんです。僕はそのハングリーな面を、隈さんの事務所に勤めていたから知ったんです。

東京から九州に戻ってきましたが、今、同世代で地方に戻っている方が増えています。東京の価値やバイタリティーはわかっています。僕が、僕は西側からどう世界に開いていくか、そこに価値があると思っています。街づくりなどもそうですが、地方が元気になることにかかわって、それが普遍的であれば、西側でできたことを世界中の人が知ることできます。西側からどう開くかが、使命だと思います。

——今後の活躍が楽しみです。今日はどうもありがとうございました。

百枝 ありがとうございます。



来年2月、福岡・春日市にオープンする「メモリードホール春日」。ご遺族の気持ちを考えた温もりと光に包まれるホール

2015年、長崎市・眼鏡橋近くにカフェ「ブリッジ」とチョコレートハウス「スペクタクル」がオープン。床には小さな眼鏡橋が



百枝 はじめに、店の中にも街を体験できるようにとご提案しました。この床は30センチの段差があります。中央カウンスターに給排水が必要だったからです。そこで、一般的には見えない「床下空間」をデザインしました。束、大引、根太といった床を支えている構造体を眼鏡橋と同じアーチの形に再構成して、ガラスの床を乗せました。

——小さな眼鏡橋が床の下にあって、橋を渡るような体験ができるというわけですね。おもしろいですね。

世界からも注目される「あぐりの丘」のチャペル

——昨年11月にオープンした「長崎あぐりの丘高原ホテル」のチャペル「FOREST OF OATH」も、従来のチャペルの発想を超えたユニークなものです。

百枝 「スペクタクル」と同じように、建物の中にも、外に在るような体験をしてほしいということが最初にありました。そこで建物を支える構造体を森の中の樹木に見立てました。普通の木造では「通し柱」といって、柱は床から天井まで一本でつながっていますが、ここでは4本の柱が上に向かって枝分かれしながら、広がっていきます。

——考えてみれば、木というのはそういうふうになつていきますね。自然がもっている仕組みと一緒にですね。

百枝 20トンくらいある屋根を樹状の構造が支えています。この仕組みはおそらく世界で誰もやっていないものかと。とても構造には見えなくて、浮遊感があります。一般の方には装飾に見えるかもしれませんが、それもおもしろいなど。

——だからJCDデザインアワード2017で金賞を受賞したのです。

百枝 一般的に重々しい構造体が、樹木や植物のように軽やかで華やかに感じられることもJCDでは評価されたのかもしれない。

2月、福岡にオープンする葬祭ホールの設計も

——来年2月には福岡に「メモリードホール春日」がオープンします。

百枝 ホールのまわりは住宅地なので、そこに馴染むようにするということがまずありました。葬儀はかつて家でも行われていたという歴史的な背景を踏まえ、4つのホールを4つの家に見立てて計画しています。それぞれの家の屋根の形を工夫して、ホール間の通路とホワイエを特別な空間にしています。

——上から見ると形がわかりそうですね。

百枝 そうですね。4つの屋根が形づくるとホワイエには光が集まります。屋根を通して光を臨めるようになっていきます。

——光を…。

百枝 ホワイエの中央上部には1メートル四方の「窓」があり、そこから屋根の上の空を感じることが出来ます。故人を想うときに、ふとひとりで空を眺める、そんな体験ができる場所を建物の中に設けています。

——たくさんの方が集まるのはありがたいですが、ひとりになりたいときもありますから。

——このページのゲストには、どなたか感謝している方をあげていただいているのですが。

自分構成してくれた3恩人